



記

皆様お元気ですか？先日のフィガロの結婚は皆様のご感想から、さすが、KLA の方々！DVD は数々あれど、あの版がどう考えても最高と思う私の気持ちをわかって頂けたのが嬉しいでした。

さて、次回はガラリと変えてピーターパン(当時アメリカで最高の評判の舞台)で軽く思いましたが、考えてみると、折角フィガロの結婚の後ですから、同じボーマルシェの二部作を、作曲家が異なると扱いもこんなに違うんだ！ということ。、そして、あまり難しく考えず、徹底的に楽しい喜劇であり、モーツアルトの精神も継ぎながら自由自在な作曲技法を駆使するロッシーニを楽しんでいただきましょう。あの小間使いや若い女性に現を抜かしていた伯爵の若い頃のひたむきな恋心をごらんあれ。ここでは、フィガロはまだ町で理髪師であり荷車に載せた店を曳き、皆から重宝がられる何でも屋として登場。恋の橋渡しから髭剃りなど軽妙に活躍します。伯爵は若く、ハンサムで 200 年に一度の高音域の歌を駆使するペルー出身の歌手ファン・ディエゴ・フローレスです。それでは又。再見！

以上

青戸